

第2回「川と人のコラボで水辺づくり」

～自然のチカラ・世の中のシカケ・住民のヤルキ～

みんなで作業をして魅力ある水辺空間を考える場「水辺の青空学校」
第2回は、川と人の関係を大きくて多様な視点から学びます。
沖縄、高知、福岡、兵庫、さらにJICA専門家としてラオス、ベトナムと様々な場所で川づくりをしてきた松木氏。
川と人との歴史や関係(古代～現在)、自然を生かした技術についてわかりやすく教えていただきます。

【午前の部:水辺の青空学校 定員20名】

10時 集合～水辺の除草作業

11時～講座(松木洋忠氏)

12時～交流タイム

12時半終了

場所:広瀬川大橋左岸(予定)の水辺 (地図参照)

服装、準備:軍手、屋外でのワークショップですので防寒等ご準備ください。携帯用いす、レジャーシートなどトイレは公園内にあります。

雨天時:地下鉄高架下にて座学、規模縮小して交流会

【夕方の部:トークイベント 定員30名】

16時～講演(松木洋忠氏)

17時～座談会

17時30分～懇親会

19時終了

場所:緑彩館 情報ラウンジ

広瀬川大橋 水辺の 青空学校 4/26(土)

【講師紹介】

松木洋忠氏

北九州市在住

松木技術士事務所/松木農園

技術士建設部門(河川、砂防および海岸)

工学博士

元国土技術政策総合研究所



松木さんからコメント:

「柳川堀割物語」に感銘を受け、「風の谷のナウシカ」を熟読する学生でした。河川のしごとで、日本の事務所、アジアの現場、欧米の会議室で働きました。おかげで「川づくり」って何?と直感的に真面目に考えてます。

こんな方におすすめしたいです!

- ✓広瀬川へ、とりあえず行ってみたい方
- ✓川や水のこと知りたい方
- ✓何か環境にできることないかとお探しの方
- ✓川と日本の歴史に興味のある方
- ✓屋外での活動が好きな方、体験してみたい方
- ✓「なんか川で過ごしてみたいなあ」と思う方

【参加費】お好きなプログラムに参加できます。A～C全部参加も歓迎!

A:午前の部 水辺の青空学校 1000円

B:夕方の部 トークイベント 1000円(大学生以下500円)

C:夕方の部 懇親会 1000円

当日受付にて現金でお支払いください。

【お申し込み】

締め切り 4/11(金)(定員になり次第締め切ります)

・QRコードから

<https://forms.office.com/r/M0eUHqUAvb>

【お問い合わせ先】

gardenofriver@gmail.com *を@に替えてください。

宮崎(080-7723-5392)

GARDEN of RIVER, SENDAI project



【交通機関】地下鉄東西線 国際センター駅、大町西公園駅
駐車場は青葉山公園等ご利用ください。

【主催】 GARDEN of RIVER, SENDAI project

【協力】 水・環境ネット東北、広瀬川市民会議、
カントリーパーク新浜、都市デザインワークス

【助成】 公益信託 オオバまちづくり基金

【共催】 青葉山エリアマネジメント(午後の部)



「GARDEN of RIVER, SENDAI project」
「庭の手入れをするように、集まった人たちが楽しく川原の手入れができれば」というアイデアが始まりです。自然環境、歴史、文化、川とともにある暮らしを育みながら、川のあるまち仙台の魅力を広げ、未来へつなごうと思います。

第1回 広瀬川大橋 水辺の青空学校のご報告 2025年3月吉日

広瀬川大橋 水辺の青空学校 第1回 2025年3月9日

無事終了しました。

今回、「青葉と水のプレーパーク」とのコラボレーションにより、実施できました。

広報の時間をあまりとれなかったのですが、新しい出会いがあり、清々しくとても気持ちのいい、そして何とも言えない暖かさを共有できた時間でした。

詳しくは、佐山さんが書かれた文章をどうぞ。

当日ご自身のFacebookにUPされていたものをOKいただきましたので、掲載しました。

アンケートから(抜粋)

Qイベントについて良かった点・印象に残った点について
「清掃を通して土地の歴史と川の魅力を再認識できたこと」
「ゴミ拾いが、子供にとって宝探しになっていたこと。」
「様々な立場の方と、「川」についての対話・交流ができたこと。」

とコメントをいただきました。ありがとうございました！



そして、次回4/26(土)の回は非常に興味深い内容となっております。日本人はどのような仕組みで川に関わってきたのか、文化歴史をふまえながら川づくりのお話です。これからの活動の参考にしたいと思います。

いい場となるように準備しておりますので、ぜひこの機会にご参加くださいませ。

【つづき】

佐山浩一さん

いつも通り「やり過ぎ笑」で、本の字が頭に入らなくなり、少しばかりの行き詰まりを感じ始めていた。気持ちが鬱々としていた私にとって、本日の「川」活動は特別な時間となった。川の香りか、火の痛さか、はたまた土の柔らかさか、人の音か。あるいはそれら全部か。終わって活動を振り返っている今、頭と心はどこか心地がよい。ちゃんとりセットされた感じ。疲れているのに心地がよい。不思議である。

前回のプレー開催の時に、プレーパークで使う場所に追廻地区で暮らしていた人たちの生活の跡(昔に使われた瓶やガラス片など)が数々埋まっていることが発覚。流石に遊び場としては危ないので、宮崎さんが主催する「川の学校」と協働で、整備活動を実施する運びとなった。

みんなで整備をしながら、火を囲み、宮崎さんが準備してくださったチャイやサムゲタンでお腹を暖めながら、広瀬川のことについて、全員の耳を傾ける時間となった。「川の学校」を主催する宮崎さんの考える課題や構想について、全員で耳を傾ける時間となった。「永続的な文化」という新たな視点を得ることができた。

危険なガラス片や瓶を土から掘り出していく作業は、だんだんと真剣な遊びの様相を早めてきており、それぞれ手持ちの道具から伝わる感触を頼り、人口の固形物を探す様子は、まるで「宝探し」をしているみたいだった。

ただの作業だったはずなのに、少しずつ真剣な遊びへと変化していく。そんな遊びを通して、誰かが誰かがゆるやかに繋がりが、「場」全体の緊張が薄れていく感覚があった。身体を動かすのはやっぱり大事。

私たちと「川」は、物理的に近くにあるにも関わらず、心理的な距離は遠い。豊かな自然体験がすぐそこにあるにも関わらず、私たちは積極的に関わろうとはしていない。危険に対する不安のためか、あるいは関わり方を知らない無知のためか、世のなかにみんなの注意を惹くような魅力的なものがたくさん溢れているためか。

終わり際、活動に来ていた二人の小紳士と、サムゲタンを味わいながらのゆったりとした雑談に興じた。「川」のせせらぎと火のパチパチをBGMにしながら彼らと交わす言葉は、気づきや感動に溢れており、まるで昔から繋がっている友達と喋っているようだった。

彼らは広瀬川の自然を身体全部を使って味わっており、次から次へと楽しい遊びを見つけてはみんなに見せびらかしていた。そんな彼らに感化された大人たちに、どんどんエネルギーが灯っていく様子がとても印象的だった。

私たちは「川」から何を得ているのだろうか？ そんな「川」との心の距離を縮めるにはどうしたらよいものだろうか？